

高病原性鳥インフルエンザ対策の振り返り農場アンケート結果について

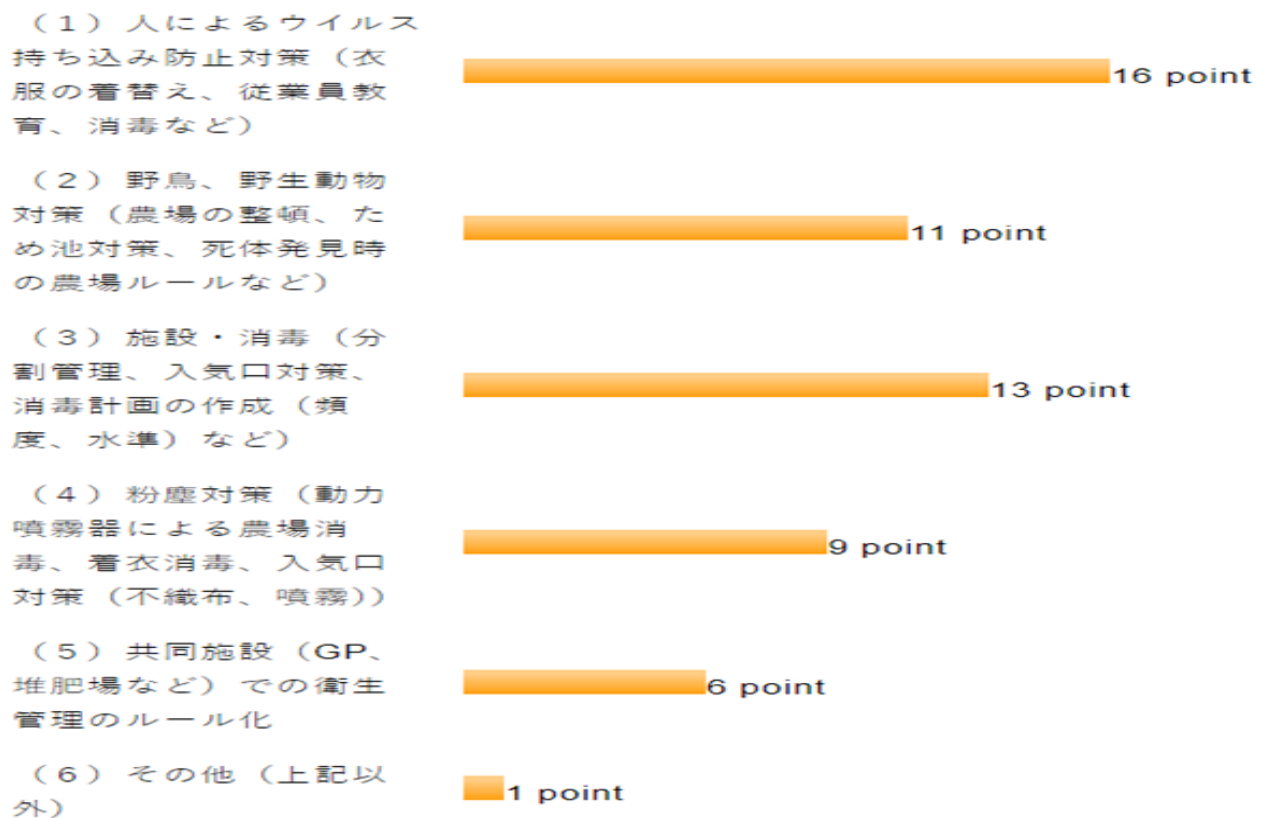
令和7年6月20日

農林水産局畜産課

令和7年5月に本県の鶏飼養農場を対象に行ったアンケート結果は、次のとおりであった。

- 1 アンケート期間 令和7年5月2日～30日
- 2 対象農場 研修会参加農場（5月1日）及び1,000羽以上飼養農場
- 3 回答数 総数19（関連農場数29）
- 4 設問数 4
- 5 結果

●令和6年度シーズンに発生予防のために取り組んだ対策で有効であった取組



- ・人によるウイルス持ち込み防止対策が有効であったとの回答が最も多かった
- ・施設や消毒、野鳥・野生動物対策といったこれまでの対策が有効との回答が多かった
- ・比較的新規対策である粉塵対策が有効であったとの回答もあった
- ・共同施設については、全体の利用状況が把握出来ていないため、引き続き注力する

●令和6年度シーズンの有効であった発生予防のための具体的取組

(1) 人によるウイルスの持ち込み防止対策

項目	具体的内容
衣服等の着替え	・シャワーIN、シャワーOUT ・鶏舎内着と鶏舎外着の区分/鶏舎入口での長靴と着衣 ・農場専用ヤッケ・長靴の着用/鶏舎専用長靴/長靴の履き替えの徹底 ・採卵終了時の着替えの徹底 ・警戒強化期間中の外来者の着替えの徹底
従業員教育	・県からの防疫ビデオを活用した従業員教育/徹底的な教育
消毒	・腕/手指/指先の消毒を徹底 ・鶏舎入場時の消毒/手のアルコール消毒 ・車両消毒の徹底
その他	・ゴム手袋着用

(2) 野鳥、野生動物の対策

項目	具体的内容
農場の整頓	・農場の整理整頓
ため池対策	・農場内のため池の水抜き ・調整池の水抜き
侵入対策	・フェンス下の隙間をなくす ・鶏舎の扉の施錠の徹底 ・鶏舎を覆うネットの確認・補強
ルール	・野鳥の死骸を農場敷地内で発見したときのルールの作成 ・野生動物等の死体発見時の農場ルールの作成
その他	・業者によるネズミの駆除

(3) 施設・消毒

項目	具体的内容
分割管理	・分割管理を実施 ・野菜施設と洗卵施設等の分割管理
消毒	・消毒計画の作成と計画に沿った消毒作業 ・細霧システムの導入と舎内の繰り返し消毒 ・散布機による効率的な石灰散布/定期的(毎週)な石灰散布 ・鶏舎周り/農場通路/鶏舎内通路への石灰散布

(4) 粉塵対策

項目	具体的内容
入気口	・入気口へのフィルター/不織布の設置
農場	・鶏舎への不織布の設置 ・動力噴霧器による場内消毒

(5) 共同施設対策

項目	具体的内容
衛生管理のルール	・共同施設の消毒の徹底 ・マスクの着用、手洗い消毒の徹底 ・入場する際の衣類及び靴の履き替え

・全ての項目において、幅広く対策がとられていた

●令和7年度シーズンに向け、発生予防のために重点的に強化したい取組

(1) 人によるウイルス持ち込み防止対策

項目	具体的内容
記録	・来場者リストの記入徹底から防疫意識の向上を図る
消毒	・出入り口での消毒の強化(持ち込まない、持ち出さない)
基本事項	・ウイルス持ち込み防止対策(衣服の着替え、従業員教育、消毒)の徹底

(2) 野鳥、野生動物の対策

項目	具体的内容
飛来防止	・AIを用いたレーザー対策 ・堆肥舎へのカラスの飛来防止対策
侵入対策	・野生動物の侵入経路の封鎖 ・野鳥侵入防止等の防鳥ネット・網張

(3) 施設・消毒

項目	具体的内容
修繕	・鶏舎の修理
消毒	・鶏舎出入り口へのジェットフォグ設置、不織布の検討 ・消石灰散布頻度の増加 ・鶏舎内の自動噴霧消毒 ・動噴による噴霧消毒の頻度の増加 ・鶏舎内への消毒設備設置 ・動力噴霧器の複数設置

(4) 粉塵対策

項目	具体的内容
入気口	・不織布による入気口対策 ・入気口への防疫対策の強化 ・入気口対策の検討推進 ・入気口へのフィルター取付の継続
農場	・不織布の張り替え(毎年実施)

(5) 全般

項目	具体的内容
全般	・基本予防対策を確実に実施 ・警戒体制の継続(7月頃からシーズン並みの予防を開始)
対応	・近隣での発生時の対応整理

- ・人によるウイルスの持ち込み防止や消毒の徹底といった基本的予防対策の強化
 - ・ネット設置、侵入経路の遮断、野鳥の飛来防止といった野生動物対策
 - ・噴霧消毒や入気口フィルターや不織布の設置といった粉塵対策
- に関する回答が多かった

●県への要望等

項目	具体的内容
対策	・他県情報(良い対策など)の積極的な情報提供を望む - 現場は通常作業もあるのでどうしても対策が遅れがちになるため
研修	・定期的な動画研修の開催を希望する
消毒	・消石灰の配布数の増数を望む ・消石灰散布などの報告事務の低減を望む
処分方法	・発生時の焼却処分の検討を進めてもらいたい ・発生時の埋却処理以外の他の処理方法への転換、検討を急いで頂きたい

【アンケート結果のまとめ】

まとめ	課題
いずれの項目も重要と認識	①継続実施
農場毎の優先順位が異なる	②優先順位の低い項目への取組が進んでいない
ポイントが少ない項目は、農場によっては対策が進んでいない項目	②対策が進んでいない項目がある